



回文会  
1 総員  
川 県  
生 徒 準 備 委 員 会  
第 1 回

行 盟 部  
石 川 県 高 等 学 校 文 化 連 盟  
新 聞 専 門 部

# 4年後に向け膨らむイメージ

## 基本方針決定に向けて

今年6月、2027年に行われる第51回全国高等学校総合文化祭が石川県で開催されることが決定した。石川県では昭和55年度開催（第4回）以来、2回目の開催となる。そのため第1回生徒準備委員会が9月15日に金沢勤労者プラザで行われた。今回は準備委員の初の顔合わせとなり、各専門部の代表者18名が一堂に会した。



2027年度 第51回 全国高等学校総合文化祭 石川大会  
第1回 生徒準備委員会

### 参加者で思いを共有

「全国高等学校総合文化祭」とは「高校生最大の文化の祭典」である。イメージとしては「文化部のインターハイ」と言っても良いだろう。全国から都道府県を代表する高校生約2万人が集まり、作品展

示、舞台発表、交流活動などが行われる。総合文化祭の「総合」は他県・特別支援学校との交流や協働、「文化祭」は生徒が企画・運営する場であり、参加者と共につくるフェスティバルという意味がある。つまり、自分のための成長や学びにつながる機会となる。そして、令和5年度生徒準備委員会の目的はこれから石川大会を作り上げて行く際のもとならざる大会基本方針を決めることにある。大会基本方針とは「どんな総文祭にしたいか」をスタート、参加者で共有するための手段であり、すべてに優先する強いメッセージである。

三藤会長は「三藤先生は「自分たちのやりたいことを心こめてやり、形にしましょう」と話した。次に石川県高文連事務局長の山本実先生より総文祭の概要説明があり、その中で「楽しみ、交流する場を大切にしたい」と力強く話した。その後、この会

のフアンリテータを務める井口時次郎さんの紹介と挨拶があり、休憩をはさんで各準備委員の自己紹介という流れとなった。

自己紹介では自分の好きなものや苦手なもの、それにさらに情報を加えた自己紹介をすることで大いに盛り上がった。その後、4グループに分かれてワークショップを行った。参加者は最初は緊張した面持ちであったが、対話を通じて楽しげな雰囲気になっていった。

今後行われる準備委員会につながる良いチーム作りの時間となり、いしかわ総文文に向けた良いスタートをきる契機となった。

## 県の魅力を協力して発掘・発信



石川の魅力を協力してプレゼン

自己紹介にて顔合わせを行った後は、石川県の魅力や特徴について4つのグループに分かれ、それぞれ調べたことを模造紙にまとめて発表した。グループのメンバーは限られた時間の中で協力してテーマの方向性を決め、県の上で分擔して調べを進め、その結果を少しづつ模造紙にまとめていった。活動の中でお互いの興味関心を引き出し、グループの個性あ

## 準備委員にインタビュー

1回目の準備委員会を終えて、石川県立工業高校放送部の直江さん、金沢辰巳丘高校美術部の半田さんに参加した感想やいしかわ総文への思いなどについて聞いた。



インタビューに明るく応じた半田さん(左)直江さん(右)

・第1回の準備委員会を終えての感想を聞かせてください。

直江さん 総文の準備とは何をやるんだろうと少し心配でしたが、話せる人がいたので良かったです。

半田さん とてもアットホームな雰囲気

で和気藹々としていていっしょに頑張ろうと思えました。また、それぞれの違った視点に触れることができ、メンバーの良いところを吸収しようと思えました。

・全国総文をどのようなものにしたいですか。

直江さん 全国の高校生などの若い世代が集まるのかなかなかない機会なので、石川の良さを伝えられるものにしたいです。

半田さん 石川の良さを伝えるために自分の持ち味を最大限生かし、次の世代がさらに良いものを創ろうと思えるものにしたいです。

## 総括



熱く語る井口さん

井口さんにインタビューした。ふれる発表資料が出来上がった。資料完成後の発表では、制限時間内ですべて石川の魅力について発信する姿が見られ、聴き手の質問にも的確に回答していた。

・今回の高校総合文化祭準備委員会の講師としての気持ちをお聞かせ下さい。

「講師」という名前についてはあくまで「高校生が主役」だと思います。私に参加する生徒の力を十分に発揮できるようにいろいろな形で働きかけていきたいと考えています。活動を行う中で、僕自身も高校生からいろいろな刺激を受けることができましたらいいと思います。

この準備委員会からいよいよ全国高等学校総合文化祭いしかわ大会に向けての本格的な準備が始まった。参加している生徒は4年後の本大会には高校生として関わることにはできない。しかし、今年度の活動は着実に次の年度へと引き継がれていき、やがては大きな実を結ぶことになる。4年後の後輩達が自信を持って大会運営に当たるためには最初の一歩が何よりも大切である。そしてまた、石川県の文化部全体の連携と協力が必要不可欠である。今年度の4回の準備委員会では大会全体の根幹をなす基本方針を作成し、それに基づいて次のステップへと踏み出していくことになることを確認できた。今回は有意義な会となった。